

つういん しせつ
通院されている施設

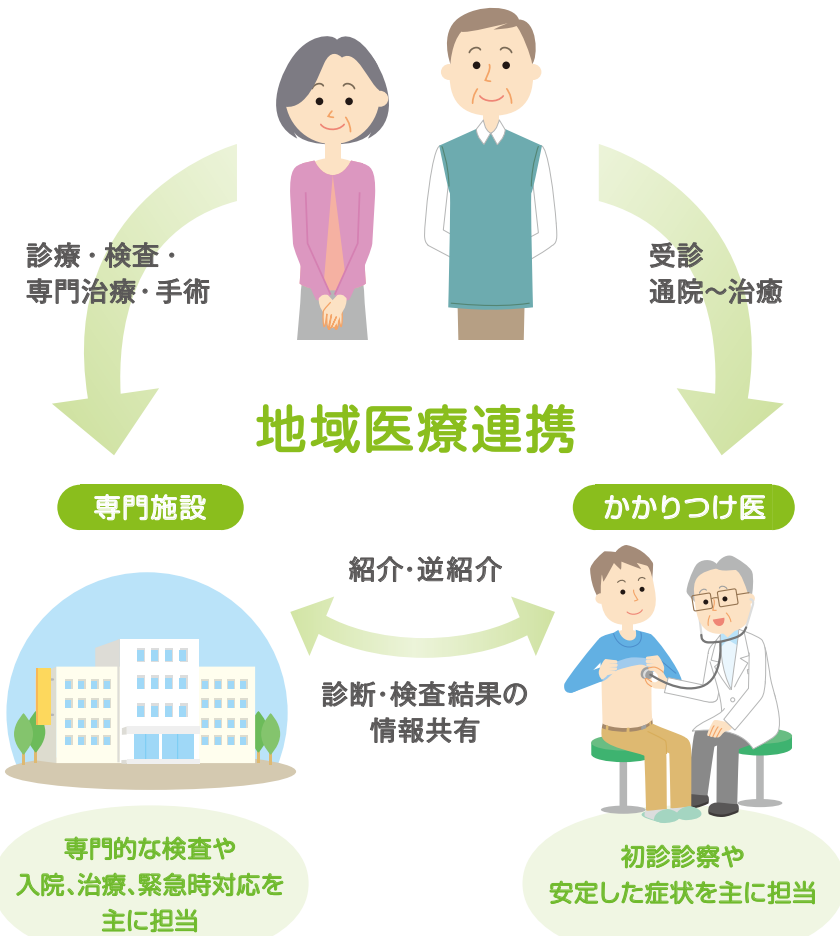
れんけいしせつ
連携施設

くわ けんさ ちりょうほうほう けんとう しょうかい
(より詳しい検査や、治療方法の検討のためにご紹介することがあります)

てんかん診療連携リーフレット vol.2

てんかんが疑われるときは

監修：自治医科大学附属病院脳神経外科 教授 川合謙介 先生



発作の様子をよく思い出して、 医師につたえましょう

「てんかんは、倒れてけいれんする病気」と思っているかたも多いですが、てんかん発作でおこる症状は、人それぞれ、さまざまです。ひとめで様子がおかしいとわかる発作から、いつもと少し様子が違うだけの小さな発作もあります。

てんかんかな、と思ったときには、まず、発作の様子を、できるだけ詳しく、医師に伝えることが大切です。どこで何をしていたときに発作が起こったのか、発作が起こっているときに意識はあったのか、こわばりやけいれんはあったのか、発作はどのくらいの時間つづいたのか、といったことです。

もし、また発作が出ることがあったら、様子を動画で撮影することもよいでしょう。



てんかんを診断するために、 いくつかの検査を行います

てんかんの発作はひとによってさまざまで、またてんかんによく似た、ほかの病気もたくさんあります。

そのため、てんかんを診断するには、いくつかの検査を行います。脳波は、脳のはたらきを電気信号としてみる検査です。てんかんの発作に特有な脳波から、脳のどの場所で発作が起こっているかもしることができます。発作の様子をみるために、何度かくり返して検査したり、入院して時間をかけて検査することもあります。

脳の画像をとる検査（MRI、CTなど）は、てんかんの原因や脳に別の病気がないかを知るための検査です。それほど時間はかかりません。血液や尿の検査をおこなうこともあります。

